

第1章 土器町の概要

1. 沿革

私たちの住む土器町は、丸亀市の北東部に位置し、東に青ノ山、西に丸亀城を望み、南に田園地帯、北に瀬戸内海が広がり、中央を県内唯一の一級河川土器川がまちを東西に分けた、自然環境に恵まれた風光明媚な面積 3.6 km²の南北に細長い形態をなした地域である。

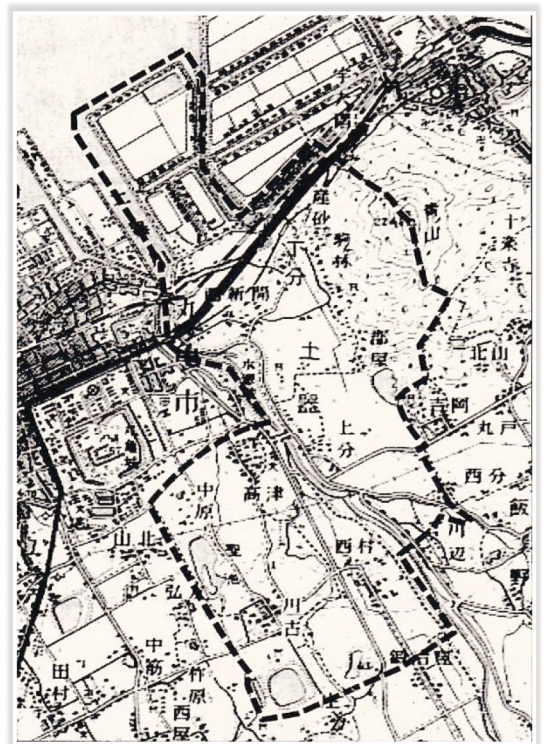
その昔、幾万年の歳月にわたり土器川の水に育まれ下流に堆積した三角州こそが土器村発祥の地である。「土器村」の名の由来は、弥生時代より、土器・鍋屋・吉岡などで土器づくりが盛んで、土器の粘土がとりわけ豊富で良質だったので、この地で土師器（はじき：褐色の素焼きの器）が多く作られ、その名が専ら村の地名になったものと考えられる。

明治 23 年の町村制施行により^{うたぐん} 鵜足郡土器村になり、明治 32 年^{うたぐん あのぐん} 鵜足郡と阿野郡との合併により^{あのぐん} 綾歌郡土器村となり、その後、昭和 29 年 5 月 3 日に丸亀市に合併された。

合併当時は世帯数 850 世帯余り、人口 4,200 人余りの農村地域であったが、昭和 60 年頃、市道土器線の開通をはじめ、浜街道や国道 11 号バイパスなどの道路整備により交通利便性が高まり、主要道路沿いに商店・スーパーマーケットや飲食店・生活関連サービス業などが多数出店し、住宅・団地等の建設に拍車がかかり人口は急増した。

現在は世帯数 5,739 世帯、人口 12,696 人（令和元年 10 月 1 日現在丸亀市常住人口）となり、世帯数 6 倍強、人口は 3 倍強に増加し、丸亀市の人口の約 1 割強を占めている。

（土器町の沿革は：土器町の年表（参考資料）をご参照ください。）



■土器町地図 昭和 32 年頃